



**高知県における幸福度の調査と、
それによる政策への反映
～「日本一の幸福実感県・高知」～**

提 言

2020年2月

土佐経済同友会

高知県における幸福度の調査と、それによる政策への反映 についての提言

～「日本一の幸福実感県・高知」～

土佐経済同友会

代表幹事 小川 雅弘

代表幹事 佐竹 新市

GKH 委員長 刈谷 敏久

はじめに

いま、幸福というテーマが世界でも重要な課題の一つとなっています。

リチャード・イースターリンが「幸福のパラドックス」で示したように、GDP や経済成長など物質的豊かさという従来の価値基準だけでは、真の幸せは得られないという考え方が浸透し始めているからです。海外では、ブータンの他、フランスやイタリアなどでも本格的な幸福度の研究が始まっており、国内においても荒川区や熊本県など多くの自治体が住民の幸福度を指標で表し、政策に反映する取り組みを行っています。

また、2015 年の国連サミットにおいて採択された「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための 17 の国際目標 (SDGs)」においても人々の幸福度の向上と経済のバランスが重要であるとされ、第 8 番目の目標として「働きがいも経済成長も」が掲げられています。

本県は、一人当たりの県民所得の水準が全国の約 8 割に留まるなど、客観データから見る限りは豊かとは言えませんが、自然・食の恵みを感じながら、人々は地域コミュニティに参画し明るく暮らしているというのが、多くの県民が持っている実感なのではないでしょうか。

まさに経済的優位ではない高知県において、働きがいである「幸せ」の増大を目指すことが、将来に向かって持続可能な高知県を形成していくうえでも大切だと考えます。

このような中、土佐経済同友会では昨年 7 月に第 4 回目となる「高知県民総幸福度(GKH)に関するアンケート」を実施しました。これまでの 4 回のアンケート結果として県民の 6～

7割が幸福であるとの回答を得て、本当の幸福は経済的な要因だけでは捉えられないことが分かりました。

このことは、高知県の幸福度指標（GKH）の策定を担った「高知県の幸福度を考える県民会議（GHK 県民会議）」に参画した高知県とすべての市町村、及びあらゆる分野の民間団体の皆さまと共有されています。

高知県民総幸福度（GKH）とは、そうした他のどこにもない高知らしい豊かさや弱みを「見える化」するために、高知での暮らしに対する県民の主観的な評価・充足感を把握し、指標化していこうという試みです。

土佐経済同友会 GKH 委員会は、令和元年10月3日に、企業、行政機関、個人が集い、“しあわせ”の増進に資する活動を展開するために設立された「一般社団法人 しあわせ推進会議」との協働により、高知県民における幸せ実感度の増減を測るため、GKH アンケートは引き続き毎年実施し、その結果は高知県をはじめ、県下各基礎自治体にも提供していく予定です。

そこで、土佐経済同友会として、下記の提言をさせていただきます。

提言 1 高知県の目指すべき基本目標の一つに、『「高知県民総幸福度（GKH）」の最大化』を掲げること

提言 2 高知県産業振興計画の目指す将来像「地域地域で若者が誇りと志をもって働ける高知県」を GKH の要素を活用して指標として見える化し、その向上に取り組むこと

提言 3 GKH アンケートを通じて、高知県下各基礎自治体でも住民の幸福度の向上を目指した政策が検討・実施されること

提言 4 提言 1～3 の取組を、GKH 指標とともに全国・世界に発信し、賛同者と協力して、“しあわせ”の研究を深めること

第4回高知県民総幸福度（GKH）に関するアンケート調査結果（一部）

高
知
家

2019年GKHアンケート調査結果概要

調査の目的

いま、幸福というテーマが世界でも重要な課題の一つとなっています。GDPや経済成長など物質的豊かさという従来の価値基準だけでは、真の幸せは得られないという考え方が浸透し始めているからです。海外では、ブータン、フランスやイタリアなどでも本格的な幸福度の研究が始まっており、国内においても荒川区や熊本県など多くの自治体が住民の幸福度を指標で表し、政策に反映する取り組みを行っています。

また、2015年の国連サミットにおいて採択された「誰一人取り残さない持続可能性で多様性と包摂性のある社会の実現のための17の国際目標（SDGs）」においても人々の幸福度の向上と経済のバランスが重要であると述べています。

我々は「高知県の幸福度を考える県民会議（GKH 県民会議）」と共に、高知県独自の豊かさの指標「高知県民総幸福度（Gross Kochi Happiness（GKH）」の指標づくりを進め、過去3回の県民アンケートを実施するとともに、広範な官民の参画のもとにシンポジウムを開催するなどして高知県における幸福度指標の在り方を議論し、2016年10月には「高知県の幸福度指標（GKH）」を決定し、公表しました。

それから3年が経ち、社会環境の変化も進み、県民の皆様方の幸福に関する意識の変化を再度調査し、アンケート結果を公表して高知県の幸福度を更に向上させる仕組みのお手伝いをして参りたいと考えております。

本県は、一人当たりの県民所得の水準が全国の約8割に留まるなど、客観データから見る限りは豊かとは言えませんが、自然・食の恵みを感じながら、人々は明るく暮らしているというのが、多くの県民が持っている実感なのではないでしょうか。高知県民総幸福度（GKH）とは、そうした他のどこにもない高知らしい豊かさを「見える化」するために、高知での暮らしに対する県民の皆さんの主観的な評価・充足感を把握し、指標化していこうという試みです。

【調査概要】

- ・調査実施期間：2019年7月17日～7月31日
- ・調査対象：満15歳以上の高知県在住者
- ・回答者数：4,078（県外在住者の回答を除く）
- ・調査方法：質問票によるアンケート調査。人生満足度、健康・人とのつながり、子育て・教育、働くこと、生活環境、文化・地域、安心・安全、お住いの都道府県の8分野について、各質問項目の実感度をお伺いしました。

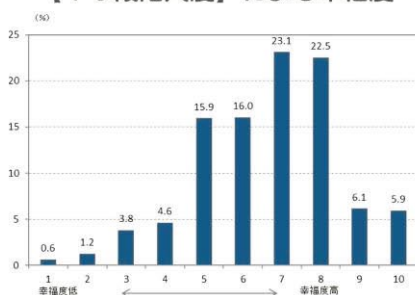
※幸福度の尺度について

- ・主観幸福度（SWB）は10段階の尺度を用いて調査。10段階のうち7～10を「幸福」、4～6を「普通」、1～3を「不幸」に分類した3段階の評価も実施。「10段階尺度での幸福度」の質問に回答していない方は、主観幸福度および他の項目とのクロス集計の対象から除いています。
- ・人生満足度は、回答された番号（1から7まで）を点数化し、総和の最大を35点、最小を5点とし、「不明・無回答」を有効回答数から除いています。
- ・各分野の質問に対する幸福度1から5までの回答について、実感度1を1点、2を2点、3を3点、4を4点、5を5点とし、「わからない」・「無回答」を有効回答数から除いています。

高
知
家

全体の幸福度

【10段階尺度】による幸福度



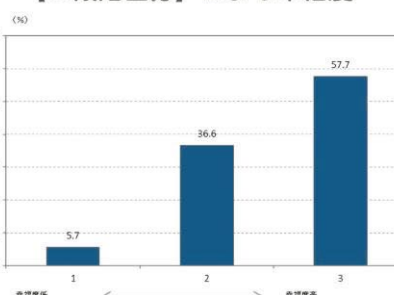
全体の幸福度（普段どの程度幸福だと感じていますか？）について、**平均値は6.7**、中央値は7であった。

回答者の73.6%が、10段階のうち上位5段階（6～10）の幸福度を感じていると回答した。

※参考：World Database of Happiness (WDH) によると**日本の主観的幸福度の平均は6.1**（2013年）

出典：R. Veenhoven, Happiness in Japan (JP), World Database of Happiness, Erasmus University Rotterdam, The Netherlands.
Viewed on 2019-09-17 at worlddatabaseofhappiness.eur.nl

【3段階区分】による幸福度



全体の幸福度（10段階）のうち、7～10を「幸福」、4～6を「普通」、1～3を「不幸」に区分。

回答者の57.7%が「幸福」、36.6%が「普通」、5.7%が「不幸」に分類された。
回答者の94.3%が、普通以上の幸福度を感じて生活していると考えられる。

各分野の項目別平均実感度〔前回調査との比較〕

幸福度3.5以上の項目はクリーム色で、3.0以下はブルーで色付けた。（次頁同様）
 前回（2016年）調査時と同じ質問項目については前回との差を表示した。（次頁同様）

分野	質問項目	項目別平均実感度		
		2016年	2019年	差
健康や人とのつながり	いざという時に頼れる人が身近にいますと感じますか	4.13	4.03	-0.10
	家族とのだんらんがあると感じますか	3.81	3.94	0.13
	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか	3.37	3.63	0.26
	あなたは、家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があったり、自分の居場所があったりと感じますか	3.77	3.96	0.19
	身近に信頼できる病院があり、気軽に相談できると感じますか	3.30	3.34	0.04
子育て・教育	子どもたちが安心して生活できていると感じますか（通学、遊びの場、学校を含む）	3.07	3.54	0.47
	お住まいの地域では子育ての環境が充実していると感じますか	2.92	3.39	0.47
	子どもたちが、社会で生活してゆく上で、必要な知識や技能、社会性、体力などを総合的に身に付けていると感じますか	3.28	3.28	0.00
働くこと	あなたは、経済的に困らない生活を送ることができていると感じますか	2.88	3.50	0.62
	あなたの生活水準はどの程度だと感じていますか（とても質いい1→最も豊か5）	—	3.26	—
	あなたは、精神的に余裕のある生活を送ることが出来ていると感じますか	3.07	3.32	0.25
	仕事（専業主婦としての家事を含む）と生活とのバランスが取れていると感じますか	3.04	3.31	0.27
	仕事（専業主婦としての家事を含む）にやりがいや充実感を感じますか	3.31	3.48	0.17
	通勤、通学は苦にならない程度の時間だと感じますか	—	3.92	—
	会社でのコミュニケーション、チームワークが良いと感じますか	—	3.60	—
	所属している組織に愛着がありますか	—	3.55	—
	所属している組織に憧れる先輩、上司がどのくらいいますか（全くいない1→全員そうだ5）	—	3.13	—
	所属している組織には多様性（性別、年齢、障がい者、外国人などで障壁等が無いこと）を受け入れる風土があると感じますか	—	3.17	—

健康や人とのつながりに関する項目は、前回同様高い実感度となった。
 子育て・教育の分野においては、子供達の安心した生活や子育ての環境充実の実感度は前回調査よりかなり高くなり、これらの環境整備が進んできたと考えられる。他方、子供達の知識・技能、社会性、体力等が身につけているとの実感度は前回同様あまり高くない。
 経済的に困らない生活だとの実感度は前回に比して大きく向上しており、高知県の産業振興計画等の効果が現れていると考えられる。また、通勤時間の短さを実感する回答も多い。

各分野の項目別平均実感度〔前回調査との比較〕

分野	質問項目	項目別平均実感度		
		2016年	2019年	差
生活環境	自由になる時間が充分とれていると感じますか	3.08	3.42	0.34
	お住まいの地域は暮らしやすい生活環境であると感じますか	3.60	3.73	0.13
	お住まいの地域では、生活する上での不快感（悪臭、騒音、ボイ捨て、ゴミ屋敷などを含む）が無いと感じますか	3.20	3.68	0.48
	お住まいの地域では、困っている人を見かけたときに、声をかけたり協力したりする雰囲気があると感じますか	3.17	3.51	0.34
文化や地域	地域に興味・関心がある活動や行事があると感じますか	—	3.23	—
	お住まいの地域に親身になって相談のしてくれる人がいると感じますか	2.92	2.98	0.06
	お住まいの地域に愛着や誇りを感じますか	3.49	3.43	-0.06
	あなたは、自分の余暇の過ごし方に満足していると感じますか	3.10	3.44	0.34
安心や安全	お住まいの地域は居心地が良いですか	—	3.79	—
	日常生活において、治安が守られていると感じますか	3.49	3.82	0.33
	災害（地震、火災、風水害）に対する備えは充分だと感じますか	2.46	3.02	0.56
	日頃から近隣の方と交流ができていると感じますか	—	3.00	—
お住まいの都道府県	昼夜を問わず女性が安心して外出できると感じますか	—	3.46	—
	身近に（気軽に）自然に接する場所（海、川、山）があると感じますか	—	4.35	—
	仕事や学校以外での知人や仲間がいると感じますか	3.61	3.75	0.14
	他の都道府県から人が訪れたい魅力ある場所だと感じますか	3.60	3.77	0.17
	あなたは（お住まいの都道府県）で暮らして幸せだと感じますか	—	3.81	—
	あなたは（お住まいの都道府県）を好きだと感じますか	—	3.95	—

生活環境面においては、前回調査に比して生活上の不快感が少なくなったことの実感度がかなり向上している。
 身近な相談相手がいるとの実感度は、前回の調査同様低い。
 前回の調査では、災害に対する備えが充分であるとの実感度は低かったが、高知県等による防災に関する広報や津波避難タワーの設置などが進み、今回の調査ではその実感度が大きく向上していると考えられる。
 近隣の方との交流ができている実感度は低い。
 高知県では身近に自然があるとの実感度はとても高く、また多くの高知県民が高知県が好きで、高知県での暮らしに幸福を感じている。

GKH 委員会委員一覧

弥勒 美彦（代表幹事）、小川 雅弘（代表幹事）、奥野 聡雄（副代表幹事）、
横山 敬（副代表幹事）、佐竹 新市（副代表幹事）、奥村 興二（副代表幹事）、
高野 一郎（副代表幹事）、関 浩明（副代表幹事）、刈谷 敏久（委員長）、
伊東 瑞文（副委員長）、久保 雄一郎（書記）、岡村 浩達、梶 英樹、木村 祐二、黒笹 慈幾、
西條 辰義、西原 敬三郎、隅田 和稔、武田 恵、武樋 泰臣、谷脇 匡晃、中澤 清一、
東山 英二、舟越 康浩、堀田 徹、堀見 和道、松岡 正憲、三谷 剛平、宮地 貴嗣、
吉田 尚人、依光 晃一郎、渡邊 基文

委員会活動記録

- | | |
|-----|---|
| 第1回 | 2019年2月28日 出席者 19名
自己紹介、本年度の活動計画について |
| 第2回 | 2019年3月28日 出席者 16名
GKH 特別委委員会の活動計画、2020年の全国セミナーにおける役割、オープン委員会開催について |
| 第3回 | 2019年4月19日 出席者 14名
GKH 指標発表までのロードマップ、GKH 指標の所掌組織について、オープン委員会の詳細について |
| 第4回 | 2019年5月15日 出席者 14名
GKH 委員会の活動計画、しあわせ推進会議の設立の件、オープン委員会の開催について（時間割、担当割等） |
| 第5回 | 2019年5月29日 同友会 38名 一般 388名
オープン委員会 シンポジウム
「みんなが幸せになる会社のあり方」塚越寛伊那食品工業(株)最高顧問 |
| 第6回 | 2019年6月14日 出席者 14名
GKH アンケートの実施要領について |
| 第7回 | 2019年7月17日 出席者 13名
GKH アンケート開始後の作業分担について |
| 第8回 | 2019年8月29日 出席者 13名
GKH アンケートの中間報告
フューチャーデザインについて（西條高知工科大学教授） |
| 第9回 | 2019年9月18日 出席者 17名
GKH アンケート結果（速報値）報告 |

- GKH アンケート結果のプレス発表の件
土佐の日（10月3日）の内容協議
11月14日の定例会について
- 第10回 2019年10月3日
「土佐の日」にて「しあわせ」シンポジウム企画運営
2019年アンケート結果並びに指標発表
- 第11回 2019年10月23日 出席者11名
GKH アンケート追加報告、GKH 指標の関連指標の選定
- 第12回 2019年11月14日
定例会（GKH 委員会及び観光振興委員会担当）
「人生百年時代のアウトドアライフ」大澤竜二小学館ライフスタイル
局プロデューサー
- 第13回 2019年12月19日 出席者16名 オブザーバー8名
GKH 指標と関連指標の検討
提言内容の検討

GKH 指標策定小委員会

- 第1回 2019年5月21日 出席者4名
第2回 2019年5月27日 出席者7名
第3回 2019年6月8日 出席者5名

本件に関する問合せ先

土佐経済同友会 事務局

〒780-0823

高知市菜園場町 1-21 四国総合ビル 3F

(株)四銀地域経済研究所 内

TEL : 088-885-6707 FAX : 088-854-8650

メール・アドレス : tosadoyu@orange.ocn.ne.jp

インターネット・ホームページ :

<https://www.tosadoyukai.com/>